

展示会出展『社会インフラテック 2018』

主 催 インフラメンテナンス国民会議・日本経済新聞社
 開催日時 2018年12月6日(木)～8日(土) 10:00～17:00
 開催場所 東京ビッグサイト(東京都江東区有明)



うなぎ完全養殖インフラ整備事業研究会では、うなぎの持続可能社会を目指し、今年4月から「うなぎ持続可能プロジェクト SEFI (Sustainable Eel Farming Infrastructure)」として一般向けに情報発信を始めています。その一環で、『社会インフラテック 2018』の自治体・団体・アカデミックゾーンに出展しました。

本展示会は『エコプロ 2018』と併設されており、3日間で16万人を超える多くの来場がありました。会場内は、SDGsをキーワードに環境に配慮された製品・サービスの発表が目立ちました。SDGsに関わる市場創出は1,320兆円と試算されており、17の目標と169のターゲットを指針とした技術開発がビジネスの課題になると主張されています。なかでも大きな部分を占めるのは、「エネルギー」と「素材」の分野。如何に再生可能なエネルギーと素材を使って社会を構築するか。その命題に多くの企業が真剣に向き合っている空気を感じました。



▲「エコプロ 2018」と併設された「社会インフラテック 2018」には多くの来場者が訪れた

『社会インフラテック 2018』においては、公共インフラの老朽化対策の最新技術・ノウハウから、IoT、AI、ドローンを活用したインテリジェント・インフラまで、幅広くインフラメンテナンスの最前線が紹介されました。CNCPも参画しているインフラメンテナンス国民会議のブースでは、国内のインフラメンテナンスに係る優れた取り組みや技術開発を表彰する「インフラメンテナンス大賞」の受賞例を紹介しており、インフラの持続可能性に対する来場者の関心を高めていました。

うなぎが絶滅危惧種に指定されてから早4年経ちますが、日本人のうなぎへの危機感は未だ低いように思われます。うなぎの生態系と食文化を守るポイントは、①天然うなぎ・稚魚の保護、②完全養殖の実用化、③河川・沿岸などインフラの整備とし、“うなぎを守りながら食文化を絶やさないうなぎの世の中にした”と、本展示会のブースでも訴えました。幾人かは足を止めていただき、「うなぎの今後はどうなるのでしょうか？」と質問されたり、「このような新しいコンセプトが大事だ」と言っていたりしました。



▲自治体・団体・アカデミックゾーンに出展したCNCP「うなぎ持続可能プロジェクト SEFI」のブース



国民の皆様とうなぎの現状を知っていただき、関心を持ってもらうことが第一歩です。これからもSEFI (<http://sefi.jp>)を中心に、うなぎの持続可能社会を目指して活動を続けて参りたいと思います。(小重忠司)